

勝山市の多文化共生社会の実現に向けた国際交流イベント等の実施

事業責任者： 丹羽 英史朗（総務部総務課主査／事務局企画力向上プロジェクトリーダー）

概 要	<p>人口に占める外国人労働者の割合が増加している「福井県勝山市」において、市が進める多文化共生社会の実現に向けた取組に協力する。本事業は、学生向けの課外活動として、学部、学年を問わず、参加学生を募集して実施し、部局横断型のチームである事務局企画力向上プロジェクトチームが、国際地域学部教員の協力を得て、学内での運営を行っている。</p> <p>勝山市と本学との「包括的連携に関する協定書」に基づき、市からの具体的な要望を受けて、令和4年度から事業を開始し、初年度は勝山市の外国人労働者に対するヒアリングを実施。2年目となる令和5年度は、同市で開催された文化交流イベントにブースを出展し、様々な国の文化や考え方を発信することで、多様性の理解や住民同士が交流するきっかけを提供した。</p>
関連キーワード	勝山市、外国人労働者、多文化共生社会の実現、かつやま WakuWaku 文化フェスタ、福井大学事務局企画力向上プロジェクトチーム

事業の背景および目的

勝山市では、地元企業で働く外国人労働者等が多く、約 300 名の外国人住民が暮らしている一方で、全体人口は減少傾向にあり、結果として、人口に占める外国人住民の比率が増加している。しかし、外国人住民が勝山市で生活する上での課題や地域住民との共生については、十分に対応できていない現状があり、勝山市総合行政審議会においても、勝山市における「多文化共生社会※1」の実現に向けて「外国人が暮らしやすい環境をつくること」が提言されている。

勝山市（行政）では、令和5年度から多文化共生社会の実現に向けた施策を予算化し、本格的に取組を開始している。福井大学事務局企画力向上プロジェクトチーム（以下「PT」という。）では、令和4年度から勝山市と協力して、本学学生による外国人労働者への聞き取り調査等を行い、日頃感じている不満や悩みを吸い上げることで、施策予算化への後押しを行った。令和5年度は、令和4年度に実施したヒアリングやその後勝山市が実施したアンケート結果において交流の機会を求める声が多かったことを踏まえ、勝山市と連携して国際交流イベントでのブース出展等を行う等、同市の多文化共生に向けた取組で連携を図る。

本取組では、PTが起点となり、本学の学生や教員を巻き込んで、勝山市が目指す多文化共生社会の実現に向け、外国人住民と地元住民との相互理解を図る取組を進めるとともに、参加学生には、勝山市の取組や多文化共生社会への関心を深め、将来的な福井への定着や地域貢献を促すことを目的とする。

※1）**多文化共生社会**：性別、年齢、障害の有無、国籍・文化的背景、性的指向・性自認などにかかわらず一人ひとりが違った個性や能力を持つ個人として尊重され、全ての人がともに思いやり、ともに責任を担いあう中で、誰もが能力を発揮し、参画・活躍できる社会

事業の内容および成果

令和4年度は、別の予算を活用し、勝山市の担当者と企業を訪問して外国人労働者へのヒアリングを実施。対象者の年齢は20～30代が多く、市役所の職員や企業の担当者に対しては相談しづらいような内容でも、年齢の近い本学学生には本音を漏らす様子が見られ、もっと同世代と交流したい、祭りに参加したい、交通や病院といった生活情報の支援がほしい等のニーズを把握することができた。その後、これら各ニーズへの対応策を議論し、市の担当者へ提案を行い、次年度以降の施策への反映を依頼した。

令和5年度は、4月に前年度に計画していたものの延期となっていた企業での外国人労働者へのヒアリング1件を行った後、10月に国際交流イベント（かつやま文化 WakuWaku フェスタ）において、本学から3つの国（インド、ブラジル、ベトナム）の文化をそれぞれ紹介する体験ブースを出展した。出展に当たっては、実際に勝山市に住む外国人住民に聞き取りを行い、その内容をポスターに盛り込むことで、参加学生にとっての多文化理解にも繋がるものとした。イベント当日は、外国人住民と地域住民の間に学生（大学）が入ることで、両者の交流が円滑に進むことを実感するとともに、本学のブース訪問をきっかけに、勝山市の多文化共生の取組に改めて興味を示す住民が多くおり、多様性への理解が進むきっかけを提供することができたと考えている。また、年度末には学生を含めた関係者での振り返りの場を設定し、今回のイベントの反省点や、次年度以降の勝山市との取組について意見交換やアイデア提案を行った。

参考文献・添付資料および特記事項等

勝山市からは、令和6年度以降についても引き続き連携協力の依頼を受けており、PTとしても、令和4年度、5年度の取組を踏まえて、引き続き市の取組に協力していく予定である。

勝山市との連携活動（令和5年度）

実施内容

（協力教員）総合グローバル領域
飯田 健志 准教授、Hennessy Christopher Robert 講師

■ 概要

勝山市主催の国際交流イベントの運営支援 （かつやまwakuwaku文化フェスタ）

実施日：令和5年10月29日（日）

当日参加者：学生7名、職員4名、教員1名、
勝山市役所、勝山市協議会

■ 目的

勝山市の多文化共生社会の実現に向けて、**学生目線**
で地域住民との異文化交流を広げる

■ 得られた成果

- 行政・学生・教職員・企業による**多職種協働**
- フィールドワークを通じた**主体的な学び**による
人材育成
- 地域住民との交流による、**福井大学生のプレゼン**
ンス向上

■ 詳細

○ 交流イベントの企画検討

- ・勝山市および協議団体と素案段階から企画検討

○ 体験ブースの企画・準備・当日運営

- ・本学が担当するブースで紹介する国の検討
→インド、ベトナム、ブラジルの3つに決定
- ・体験ブースの内容検討および準備
3グループに分かれ、グループごとに担当国の
ブースの企画から当日内容までを検討・準備
インド：インドの文字で名刺づくり
ベトナム：ベトナムの民族遊び体験
ブラジル：ブラジル産コーヒー豆当てクイズ
&コーヒーのドリップ体験

○ 各国の紹介パネル作成

- ・勝山市在住外国人にヒアリングを実施
- ・ヒアリングで得た情報をもとにパネルを作成

○ 当日の運営

- ・当日準備～各ブースで来客者対応～片付け

○ まとめと振り返り

- ・勝山市職員も交え、本年の振り返りを実施

会場風景



体験ブース：インド

- ・インドの民族衣装/映画の展示
- ・テーヴァナーガリー文字で名刺づくり体験



体験ブース：ベトナム

- ・ベトナムのおもちゃ展示・体験
- ・オー・アン・クアン体験



体験ブース：ブラジル

- ・ブラジル産コーヒー豆当てクイズ
- ・セルフDEブラジルコーヒー

